

---

# 遠き日々

凜空

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遠き日々

### 【コード】

N1194B

### 【作者名】

凜空

### 【あらすじ】

幼なじみと幼なじみ。ただの昔からの友達だったしかしあの日  
境に……

**(前書き)**

この物語は恋愛物語です。  
特に特別な事はありません。  
楽しんでくださいね

ダダダダダ もの凄い音がする。

「ち、遅刻だー行つてきます!」

俺の名前は深紅。今中学校一年生だ。といつてもこんな自己紹介をしてる場合でもない。

学校に着いた。一時間目はと……。体育か。

朝のSTが終わり体育館に行く。友達とわいわい喋りながら

「最近、誰か分からないけど告白したやつがいるらしいんだ」

あ、そうなの……。別に人のそんな話には興味がない

今日の体育はバスケットだ。フッフ バスケット部の腕前をみせてやる。

やっと試合だ。……ん？相手は女子か。

うわー……。凜がいるし

の名前は凜。俺の幼なじみだバスケットも滅茶苦茶うまい。

開始から積極的にボールを取りに行く、今の力は凜と五分五分というところだろう。

「きゃっ」

足を滑つて倒れ込みそうになる。何でだ……。体が勝手に動く

「大丈夫か……?」

「深紅……。ありがとう。」

「今日の昼の放課屋上にきてくれ」

こう言葉を残し、また試合に戻る……。

今凜はどんな気持ちなんだろう……?

結局その後自分はバスケットの試合に集中できなくなっていた。もちろん凜もだ

〈昼の放課〉

屋上で凜を待つ……。寒い!寒い!寒い!早く来てくれーといつても

読んだのは自分だ。凧が来た

「用件は……?」

「あのさ……。中学校に入ったときから凧がいい女に見えてきて  
さ」

「……好きって事?」

「ああ」

・  
・  
・

「ぶぶ……。可愛いな凧は俺がそういう事いうと思った?」

「あ、そういえばらしくないなとは思ってたけど」

「はい、誕生日プレゼント。おめでとう」

「クマのぬいぐるみ……。ありがとう」

といい凧に抱きしめられる。離れようとするけど凧が

「このままでいさせて……」

結局昼の放課終了までこうしていた。

（10年後）

「ねえ……。深紅10年前の事覚えてる?」

「な……。そんな事より早く式場に行くぞ!」

凧の手を握り式場へ向かう。

この先も……。ずっと先も……。凧と一緒に生きていける

(後書き)

どうでしたか？今回の短編は  
自分が初めて書いた小説を初投稿として投稿させ戴きました。これ  
からもよろしくお願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1194b/>

---

遠き日々

2010年12月22日15時19分発行